

就職不安が大学生の生活不安に与える影響について

Effects of employment anxiety on the anxiety of university students

田 中 存
Tamotsu TANAKA
教育学研究科14期生

菅 原 圭 一
Keiichi SUGAWARA
教育学部55期生

菅 千 索
Sensaku SUGA
心理学教室

2007年10月1日受理

はじめに

青年期とは、子どもから成人に移行する過渡期のことであり、発達心理学では14・5歳から24・5歳までの時期のことをいう。Erikson(1969)は青年期における発達課題として“アイデンティティの確立”を挙げている。そして、青年期においては自己を正しく理解し自己のなかに存在する多くのアイデンティティを統合することが課題とされると主張している。即ち青年期の終わりには、将来に対してある程度見通しが立てられる時期であると考えられる。しかし、近年、青年期のモラトリウム期間の延長が問題視されている。青年期のモラトリウム期間の延長については、さまざまな分野での議論が頻繁に行われている。臨床心理学的には、このような現象を生み出す原因の一つとして青年の未熟さが挙げられる。大学生といえば、青年期の終わりにあたる。しかしながら、現代の大学生をみると、将来に対する見通しどころか、精神的に未熟な学生も少なくない。そのため、現代の大学生は自律すべき“自我”をもって、不安をはじめとするさまざまな悩みを自分で解決していくべきという考え方はもはや変化しつつあるのではないかと考えられる。それを裏づけるものとして、同一性危機、ピーターパン症候群、モラトリウム、卒業恐怖、就職恐怖、アパシー症候群などという言葉がある。また、就職・卒業恐怖と平行して、自らの進路を決められない大学生が増えてきている。これらの病理現象の背後には、大学生の未熟さと同時に必ず不安が存在している。職業決定は青年期後期の最も深刻な課題といえる。

Erikson(1969)のアイデンティティ理論で挙げられている、アイデンティティの拡散・危機は職業決定の困難という形で最もよくあらわれるという。大学生の職業未決定は、アパシーや留年などアイデンティティの発達が不十分なため、職業についての自己決定ができないという消極的、病理的な職業未決定の存在であるとされている(笠原,1984)。また、大学生の職業決定に関する研究は、Bandura(1977)の自己効力理論から行われたものが多い(Taylor&Betz,1983; Taylor&

Popma,1990; 浦上, 1991, 1993a, 1993b)。自己効力感とは、自分一人の力である行動がうまくできるかどうかという予期のことである(Budura,1977)。そして、この自己効力感が高いほど困難に対する抵抗力をより持っていると考えられている。したがって、職業選択過程で自己効力感の強いものは、就職活動に対し積極的であるが、逆に低いものは就職活動を避ける可能性が高いことが予測される。このことに関してはすでにHackett&Beltz(1981)やTaylor&Betz(1983)、浦上(1996)の研究によって明らかにされている。しかし、大学生の職業不決断を予知する要因は、職業選択に対する自己効力感以外にもいくつか存在していると考えられる。その要因の一つとして、就職不安がある。藤井(1999)は就職不安を「職業決定および就職活動段階において生じる心配や戸惑い、ならびに就職決定後における将来に対する否定的な見通しや絶望感」と主張している。また、就職不安は就職が決まったからといって消滅するような単純なものではない。就職が決まった後も、自分の選択が正しかったかどうかを思い悩み、夜も眠れなくなる大学生は少なくない。これは就職不安が就職決定後も続くことを示唆している。Gati(1986)は、職業選択を、実際にその職業に就いて職場で働くまで自分が選択した職業の良否がわからない「最終決定の曖昧な意志決定」と述べている。したがって、大学生は職業選択に対して長期間にわたり不安を感じ続けざるをえないといえる。このような就職不安を長期間感じ続けることで、心身に様々な影響が出てくるのが十分に予想される。

また近年、大学に対し不適応を起こす学生が深刻な問題となっている。不適応の原因として、不本意入学、大学になじむことができない、講義が面白くないなどの理由が考えられる。文部科学省の調査によると、大学または短期大学への進学率は50%を超えている(2005)。進学を希望する学生は皆、進学できる時代となってきている。だからといって、全ての人が希望しているところへ進めるわけではない。むしろ、入りたい学校に入学できない不本意入学者は多数いると考え

てよいであろう。このように、大学生は様々な問題を抱えながら生活している。大学不適応や就職不安などが要因となり、学校生活・日常生活に不安が生じていると考えられる。そのため、大学生の感じる不安と、進路(職業)決定には密接な関係があるのではないかと考えられる。

本研究では大学生を対象とし、不安に関する調査を進めていく。現在の大学生は就職や日常にどの程度不安を抱えているのだろうか。また、就職不安が大学生の学生生活・日常生活の中で感じる不安にどのように影響を与えているのかを検討することが目的である。

方法

被験者：和歌山大学の学生81名(男子49名、女子32名)で、その平均年齢は20.6歳であった。学年別では1回生27名(男子18名、女子9名)、2回生14名(男子7名、女子7名)、3回生15名(男子10名、女子5名)、4回生24名(男子14名、女子10名)。また調査に先立って回答させた結果からは、「自宅生」35名、「下宿生」46名、「アルバイトをしている」66名、「同・していない」15名、および「クラブ(サークル)活動をしている」62名、「同・していない」19名であった。

質問紙：以下に示す5種類について評定させた。

①**大学生生活不安尺度：**藤井(1998)が作成したものを使用した。この尺度は大学生において特徴的に認められる不安感の程度を測定するものであり、29項目で構成されている。回答は大学生生活について、「はい(1点)」「いいえ(0点)」の2件法で求めた。

②**家族機能測定尺度：**FACEⅢを、草田・岡堂(1993)が和訳して作成したものを使用した。この尺度は、現実と理想の家族機能を測定するものであり、20項目で構成されている。回答は家族機能について、「いつもある(5点)」「よくある(4点)」「ときどきある(3点)」「たまにある(2点)」「まったくない(1点)」の5件法で求めた。

③**友人関係尺度：**岡田(1995)が作成したものを使用した。この尺度は青年期の友人関係の特徴を測定するものであり、計17項目で構成されている。回答は友人関係について、「非常に当てはまる(4点)」「やや当てはまる(3点)」「あまり当てはまらない(2点)」「全く当てはまらない(1点)」の4件法で求めた。

④**職業未決定尺度：**下山(1986)が作成したものを使用した。この尺度は、職業未決定の状態を測定する尺度であり、計38項目で構成されている。本研究では下山(1986)の下位尺度である“混乱”、“決定”の計12項目を使用した。回答は職業の決定について、「あてはまる(3点)」「どちらとも言えない(2点)」「あてはまらない(1点)」の3件法で求めた。

⑤**進路不決断尺度：**清水(1990)が作成したものを使用した。この尺度は「進路不決断」の概念がどの程度、

どのような原因で不決断が生じているのかを測定するものであり、項目で構成されている。本研究では5尺度50項目の内“モラトリアム”の尺度10項目を使用した。回答は進路(職業)の不決断について、「よくあてはまる(5点)」「ややあてはまる(4点)」「どちらともいえない(3点)」「ややあてはまらない(2点)」「まったくあてはまらない(1点)」の5件法で求めた。

本研究ではタイトルにそって、就職と大学生生活に焦点を当てた。そのため、分析には質問紙で用いた大学生生活不安尺度、職業未決定尺度、進路不決断尺度の結果を使用した。

手続き：最初に、フェイスシートで、学部、性別、年齢、学年、“クラブ(サークル)活動をしている・していない”、“自宅生・下宿生”、“アルバイトをしている・していない”を記入してから(無記名方式)、5つの尺度全てに評定させた。『記入の際はあまり深く考えず、ありのまま答える』よう教示を与えた。所要時間は10分程度であった。

結果

因子分析：各尺度について主因子法、Varimax法による因子分析を行った。固有値の変動及び解釈可能性から、大学生生活不安尺度では3因子が抽出された(Table 1)。また、藤井(1998)と同様に尺度全体を1つの尺度得点として用いた。第1因子は、「テストを受ける時、悪い点をとってしまうのではないかと心配になります」、「テストを受けていて、わからない問題に出会ったとき、頭の中が真っ白になってしまうことがあります」、「友達と一緒に何かをしなければならぬとき、うまく協力できるか不安な気持ちになります」、「卒業論文がうまく書けるかどうか、不安です」など大学生生活において、達成しなければならない事柄への不安の項目が負荷しており“大学生生活達成不安因子”と命名した。第2因子は、「留年したらどうしようと、気になります」、「成績のことが気になって仕方ありません」などの項目が負荷しており、その他にも、卒業、就職、生活費、授業への遅刻などの、大学での日常生活に関する不安に関する項目も含まれているため“日常生活不安因子”と命名した。第3因子は、「この大学にいると、何か不安な気持ちになります」、「大学を退学したいと思うことがあります」、「こんな大学にいたら自分がダメになるのではないかと憂鬱な気分になることがあります」の3項目が負荷している。これらの項目は大学に対する不適応を示していると考え“大学不適応因子”と命名した。 α 係数はそれぞれ.84、.78、.80であった(以下、 α 係数は小数点第3位で四捨五入)。

就職未決定尺度では2因子が抽出された(Table 2)。第1因子は、「自分の職業決定には自信を持っている」、「自分なりに考えた結果、最終的にひとつの職業を選んだ」など、職業を決定するときの要素を含ん

だ項目が負荷しており“決定因子”と命名した。第2因子は、「職業決定のことを考えると、とても焦りを感じる」、「望む職業につけないのではと不安になる」、「将来に職業のことを考えると気が滅入ってくる」、「私は、あらゆるものになれるような気持ちになる時と、何にもなれないのではないかという気持ちになる時がある」の4項目が負荷しているので、“混乱因子”と命名した。 α 係数はそれぞれ.59、.71であった。

進路不決断尺度では清水(1990)と同様の結果が得られた(Table 3)。そこで清水(1990)の因子名をそのまま用い、第1因子を“進路(職業)決定不安因子”、第2因子を“進路(職業)モラトリアム因子”とした。 α 係数はそれぞれ.92、.75であった。

大学生生活不安尺度、就職未決定尺度、進路不決断尺度の平均値：総括的な上位尺度である“大学生生活不安尺度”(分布可能範囲0~29)と各因子“大学生生活達成不安”(同0~14)、“日常生活不安”(同0~7)、“大学不適応”(同0~3)、“就職未決定尺度の“決定”(同5~15)、“混乱”(同4~12)、進路不決断尺度の“進路(職業)決定不安”(同5~25)、“進路(職業)モラトリアム”(同5~25)の全体および各群ごとの平均値と標準偏差をTable 4に示す。各群間の平均値の差の有意性を検定するために、2群からなる「性別(男性・女性)」、「住まい(自宅・下宿)」、「アルバイトの有無」についてt検

定を行ったところ、性別で「進路(職業)決定不安」($t = -2.403, p = .019$)、住まいで「日常生活不安」($t = -2.361, p = .021$)に有意差が認められた。進路(職業)決定の際に男性よりも女性の方が不安を感じやすく、自宅者よりも下宿者の方が日常生活に不安を抱きやすいようである。つぎに複数の群からなる「学部(教育・経済・シス工)」、「学年(1~4回生)」について分散分析を行ったところ、「学年」で「決定」($F_{(3,76)} = 2.776, p = .047$)と「進路(職業)決定不安」($F_{(3,76)} = 2.742, p = .049$)に有意な主効果が認められたため(Table 5、Table 6)、事後検定としての多重比較を行った(Table 7、Table 8)。その結果、「決定」で2回生と4回生の間に有意な差(5%未満)が認められた。確かに2回生で落ち込んでいるものの学年が上がるにつれて、決定が上がっていく方向にあることが示唆される。「進路(職業)決定不安」でも、2回生と4回生の間に有意な差の傾向(10%未満)が見受けられた。ここでも2回生で不安が高くなっているが学年が上がるにつれて不安が低下していく方向にあることが示唆される。**不安相互間の相関係数**：「大学生生活不安尺度」とその各因子の相関行列をTable 9に示す。「大学生生活不安尺度」は「大学生生活達成不安」とかなり高い相関が、「日常生活不安」はやや高い相関が認められ、「大学不適応」とはあまり高くなかった。さらに「大学生生活

Table 1 大学生生活不安尺度の因子分析結果

項目内容	F1	F2	F3	共通性
テストを受ける時、悪い点をとってしまうのではないかと心配になります	0.686	0.233	0.085	0.532
テストを受けていて、わからない問題に出会ったとき、頭の中が真っ白になってしまうことがあります	0.614	0.040	-0.027	0.379
授業中、先生の言っている内容がわからなくて、不安になることがあります	0.579	0.293	-0.030	0.422
テスト中に時間が残り少なくなると、自分の考えがまとまらなくなります	0.569	0.032	0.057	0.328
授業中に何かをしなければならぬとき、へまをするのではないかと不安になります	0.543	-0.121	0.034	0.311
申請した授業の単位がきちんともらえるかどうか心配です	0.495	0.332	0.062	0.359
大学の先生と話をすると、とても緊張します	0.478	-0.064	-0.082	0.239
先生が近くにいると気がなつてしかたがありません	0.440	0.145	0.040	0.217
授業で発表するとき、声が震えることがあります	0.430	0.036	0.031	0.187
大学で人が自分のことをどう思っているか、気になります	0.416	0.257	0.244	0.299
友達と一緒に何かをしなければならぬとき、うまく協力できるか不安な気持ちになります	0.391	0.245	0.284	0.294
サークルで先輩たちとうまく付き合えるか心配です	0.390	0.081	0.196	0.197
卒業論文がうまく書けるかどうか、不安です	0.386	0.002	0.056	0.152
テスト中、緊張して自分の力が発揮できません	0.385	0.257	0.011	0.214
留年したらどうしようと、気になります	-0.129	0.764	0.133	0.618
成績のことが気になって仕方がありません	0.132	0.697	0.135	0.521
4年間で卒業できるかどうか、不安です	0.023	0.659	0.253	0.499
大学の成績のことを考えると、憂鬱です	0.134	0.617	0.120	0.413
1時間目の授業にきちんと起きて出席できるかどうか、不安です	-0.024	0.472	0.025	0.224
将来、良い会社に就職できるかどうか、不安です	0.256	0.440	-0.001	0.260
1ヶ月の生活費が足りるかどうか、心配です	0.119	0.396	-0.030	0.171
この大学にいて、何か不安な気持ちになります	0.010	0.086	0.891	0.801
大学を退学したいと思うことがあります	-0.070	0.064	0.802	0.653
こんな大学にいたら自分がダメになるのではないかと憂鬱な気分になることがあります	0.113	0.344	0.558	0.442
入学した学部が自分に合っていないような気がして不安です	0.346	0.127	0.289	0.219
万一事故に遭ったり、病気をしたらどうしようと心配になることがあります	0.345	0.158	-0.134	0.162
必修科目の成績が“D”(不可)だったらどうしようと心配になることがあります	0.341	0.293	0.007	0.202
先生に「研究室まで来るように」と呼ばれたら何を言われるかとても気になります	0.276	0.028	0.030	0.078
できることなら、転学あるいは転部したくて仕方がありません	0.168	-0.018	0.131	0.046
固有値	5.988	3.068	2.054	
寄与率 (%)	20.647	10.579	7.083	

Table 2 職業未決定尺度の因子分析結果

項目内容	F1	F2	共通性
自分の職業決定には自信を持っている	0.775	-0.191	0.637
自分なりに考えた結果、最終的にひとつの職業を選んだ	0.735	-0.050	0.543
自分のやりたい職業は決まっており、今は、それを実現していく段階である	0.713	-0.155	0.532
自分の職業計画は、着実に進んでいると思う	0.596	-0.221	0.404
私は、いつも自分で実現できないような職業ばかり考えている	-0.356	0.346	0.246
職業決定のことを考えると、とても焦りを感じる	-0.086	0.758	0.582
望む職業につけないのではと不安になる	-0.282	0.549	0.380
将来に職業のことを考えると気が滅入ってくる	-0.154	0.530	0.305
私は、あらゆるものになれるような気持ちになる時と、何にもなれないのではないかという気持ちになる時がある	-0.007	0.519	0.270
誤った職業決定をしてしまうのではないかと言う不安があり、決定できない	-0.431	0.465	0.402
自分の職業については、いろいろ計画をたてるが、一貫性が無く、次々に変化していく	-0.378	0.447	0.343
職業につけたとしても、うまくやっていく自信がない	-0.167	0.422	0.206
固有値	4.296	1.654	
寄与率 (%)	35.804	13.779	

Table 3 進路不決断尺度の因子分析結果

項目	F1	F2	共通性
進学先(職業先)を決める事のむずかしさを考えると不安になる	0.882	0.237	0.833
どのようにして進学先(職業)を決めればよいかわからないので不安である	0.858	0.144	0.757
進学先(将来、職業)を決める事がうまくいくかどうか心配である	0.855	0.140	0.750
進学先(将来の職業)を決めることが漠然としていて不安である	0.840	0.210	0.751
進学先(将来の職業)を決めることに対して不安がある	0.839	0.018	0.704
進学(職業)のことなど考えずに、自分の好きな事に集中していきたい	0.108	0.765	0.597
進学(将来の職業)のことを真剣に考えたことがない	0.084	0.743	0.559
将来のことはわからないから、進学先(職業)の事は考えたくない	0.339	0.736	0.656
進学などせずに(将来、職業につかずに)、好きな事をしていきたい	0.032	0.645	0.417
今まであまり進学(職業)のことを真剣に考えたことがない	0.131	0.606	0.384
固有値	4.491	1.917	
寄与率 (%)	44.909	19.167	

Table 4 大学生生活不安尺度・就職未決定尺度・進路不決断尺度の平均値(上段)と標準偏差(下段斜体)

因子(尺度)	全体	性別		住まい		アルバイトをして		学 部			学 年			
		男子	女子	自宅	下宿	いる	いない	教育	経済	シスエ	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生
大学生生活不安尺度	10.67	10.61	10.75	9.49	11.57	10.98	9.27	9.75	11.14	11.82	11.04	12.07	10.73	9.50
	<i>5.68</i>	<i>5.68</i>	<i>5.78</i>	<i>4.79</i>	<i>6.18</i>	<i>5.70</i>	<i>5.56</i>	<i>4.77</i>	<i>6.65</i>	<i>5.77</i>	<i>5.73</i>	<i>7.20</i>	<i>5.32</i>	<i>5.20</i>
大学生生活達成不安	7.52	7.24	7.94	7.14	7.80	7.74	6.53	7.08	7.75	8.06	7.44	8.21	7.20	7.50
	<i>4.19</i>	<i>4.30</i>	<i>4.07</i>	<i>3.76</i>	<i>4.50</i>	<i>4.30</i>	<i>3.62</i>	<i>3.50</i>	<i>4.54</i>	<i>5.02</i>	<i>3.90</i>	<i>5.25</i>	<i>3.45</i>	<i>4.51</i>
日常生活不安	2.60	2.86	2.22	1.97	3.09	2.69	2.27	2.11	2.82	3.29	2.85	3.21	2.93	1.75
	<i>2.17</i>	<i>2.20</i>	<i>2.14</i>	<i>1.79</i>	<i>2.32</i>	<i>2.20</i>	<i>2.05</i>	<i>1.98</i>	<i>2.42</i>	<i>1.96</i>	<i>1.99</i>	<i>2.29</i>	<i>2.58</i>	<i>1.92</i>
大学不適應	0.54	0.51	0.59	0.37	0.67	0.56	0.47	0.56	0.57	0.47	0.74	0.64	0.60	0.25
	<i>0.98</i>	<i>0.92</i>	<i>1.07</i>	<i>0.84</i>	<i>1.06</i>	<i>0.96</i>	<i>1.06</i>	<i>1.05</i>	<i>1.00</i>	<i>0.80</i>	<i>1.16</i>	<i>1.15</i>	<i>0.99</i>	<i>0.53</i>
決定	9.94	10.10	9.69	10.03	9.87	10.00	9.67	10.56	9.21	9.82	9.59	8.79	9.87	10.92
	<i>2.40</i>	<i>2.38</i>	<i>2.46</i>	<i>2.55</i>	<i>2.32</i>	<i>2.46</i>	<i>2.23</i>	<i>2.41</i>	<i>2.51</i>	<i>1.94</i>	<i>2.75</i>	<i>2.39</i>	<i>2.07</i>	<i>1.84</i>
混乱	10.22	9.86	10.78	10.14	10.28	10.20	10.33	9.78	11.00	9.88	9.59	11.50	10.60	10.17
	<i>2.79</i>	<i>2.74</i>	<i>2.81</i>	<i>2.94</i>	<i>2.70</i>	<i>2.84</i>	<i>2.64</i>	<i>2.74</i>	<i>2.93</i>	<i>2.52</i>	<i>2.87</i>	<i>2.82</i>	<i>2.32</i>	<i>2.68</i>
進路(職業)決定不安	15.38	14.06	17.41	15.03	15.65	15.45	15.07	14.17	17.11	15.12	15.11	18.36	17.27	13.21
	<i>6.22</i>	<i>5.86</i>	<i>6.29</i>	<i>6.44</i>	<i>6.10</i>	<i>6.24</i>	<i>6.31</i>	<i>6.83</i>	<i>6.01</i>	<i>4.65</i>	<i>7.00</i>	<i>5.98</i>	<i>5.85</i>	<i>5.06</i>
進路(職業)モラトリアム	12.28	11.98	12.75	11.26	13.07	12.03	13.40	11.08	13.54	12.76	10.59	13.57	13.20	13.17
	<i>4.47</i>	<i>4.77</i>	<i>3.99</i>	<i>3.92</i>	<i>4.73</i>	<i>4.40</i>	<i>4.75</i>	<i>4.49</i>	<i>4.47</i>	<i>3.98</i>	<i>3.83</i>	<i>4.09</i>	<i>4.57</i>	<i>4.76</i>

達成不安」と「日常生活不安」および「大学不適應」、
「日常生活不安」と「大学不適應」の相関はかなり低い結果となったため、タイプの異なった不安を測定しているのではないかと判断される。

不安と関連変数の相関係数および重回帰分析：「大学生生活不安尺度」「大学生生活達成不安」「日常生活不安」「大学不適應」と就職未決定尺度(「決定」「混乱」)、進路不決断尺度(「進路(職業)決定不安」「進路(職業)モラトリアム」)の相関係数をTable 10に示す。それによると、不安は「混乱」と「進路(職業)決定不安」は相対的にやや高い相関が見受けられたが、「決定」と「進路(職業)モラトリアム」は低い値にとどまっていた。また、「大学不適應」は他の変数よりもさらに低い値を示していた。つぎに不安に関する4指標を目的変数、就職未決定尺度、進路不決断尺度を説明変数とする重回帰分析をステップワイズ法で行った結果をTable 11に示す。ここで有意な標準偏回帰については、「大学生生活不安尺度の合計得点」・「大学生生活達成不安」・「大学不適應」には「進路(職業)決定不安」が、「日常生活不安」には「混乱」が回帰に寄与していた。全ての目的変数に対してそれぞれ1つの説明変数のみ寄与していた。

考察

現在の大学生が就職や日常に抱く不安をどれほど抱えているのだろうかという問題意識から質問紙法による調査を行った。その結果、「大学生生活達成不安」と「日常生活不安」にやや不安を抱えてはいるものの、「大学不適應」を感じている学生はごくわずかであった。大学生生活不安尺度・就職未決定尺度・進路不決断尺度について、2群からなる「性別」、「住まい」、「アルバイトの有無」におけるt検定を行った。その結果性別では、「進路(職業)決定不安」で有意な差が認められた。一般的に性別では男性よりも女性の方が不安を抱く傾向が強いと考えられている。そのため、女性の方が不安

Table 5 決定の学年間の分散分析表

Source	SS	df	MS	F	p
主効果	44.76	3	14.92	2.78	0.047
誤差	408.44	76	5.37		
全 体	453.20	79			

Table 6 進路(職業)決定不安の学年間の分散分析表

Source	SS	df	MS	F	p
主効果	291.22	3	97.07	2.74	0.049
誤差	2690.77	76	35.41		
全 体	2981.99	79			

Table 7 決定の学年間の多重比較

学年(I)	学年(J)	平均値差(I-J)	有意確率
1 年生	2 年生	0.81	0.717
	3 年生	-0.27	0.983
	4 年生	-1.32	0.184
2 年生	1 年生	-0.81	0.717
	3 年生	-1.08	0.594
	4 年生	-2.13	0.038
3 年生	1 年生	0.27	0.983
	2 年生	1.08	0.594
	4 年生	-1.05	0.518
4 年生	1 年生	1.32	0.184
	2 年生	2.13	0.038
	3 年生	1.05	0.518

Table 8 進路(職業)決定不安の学年間の多重比較

学年(I)	学年(J)	平均値差(I-J)	有意確率
1 年生	2 年生	-3.25	0.354
	3 年生	-2.16	0.675
	4 年生	1.90	0.666
2 年生	1 年生	3.25	0.354
	3 年生	1.09	0.960
	4 年生	5.15	0.057
3 年生	1 年生	2.16	0.675
	2 年生	-1.09	0.960
	4 年生	4.06	0.172
4 年生	1 年生	-1.90	0.666
	2 年生	-5.15	0.057
	3 年生	-4.06	0.172

Table 9 不安相互間の相関係数

因子(尺度)	I	II	III	IV
I 大学生生活不安尺度	—	0.901***	0.689***	0.430***
II 大学生生活達成不安	0.901***	—	0.345***	0.190
III 日常生活不安	0.689***	0.345***	—	0.310**
IV 大学不適応	0.430***	0.190	0.310**	—

*: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$

Table10 不安尺度と就職未決定尺度、進路不決断尺度との相関

因子(尺度)	就職未決定尺度		進路不決断尺度	
	決定	混乱	進路(職業)決定不安	進路(職業)モラトリアム
大学生生活不安尺度	-0.199	0.506***	0.535***	0.270*
大学生生活達成不安	-0.154	0.460***	0.490***	0.231*
日常生活不安	-0.182	0.369**	0.352**	0.217
大学不適応	-0.092	0.153	0.233*	0.102

*: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$

が高いと予測された。確かに、4を見ると女性の方が「日常生活不安」を除いた不安で高い値を示している。また、就職未決定尺度に対しては「混乱」で高い平均値を示し、決定では低い平均値を示していた。やはり女性に関しては、社会的に働くことが難しい部分が残っているのが現状であり、結婚、出産などについても視野に入れながら進路を決めなくてはならない。そのため男よりも、進路を決める際により慎重にならなくてはならず、そのため男よりも進路を決めることに対して不安を感じてしまうと考えられる。

住まいでは、「日常生活不安」で有意な差が認められ、自宅生より下宿生の方が高い平均値を示していた。その他でも有意ではないが下宿生の方がやや高い平均値を示していた。差のある項目を見てみると「1時間目の授業にきちんと起きて出席できるかどうか、不安です」、「1ヶ月の生活費が足りるかどうか、心配です」、「4年間で卒業できるかどうか、不安です」等の、大学生活における日常生活に存在する不安を示す項目で構成されている。その原因として、下宿生のほとんどは一人暮らしをしており、自分ひとりでやっていかななくてはならない。そのために不安を感じやすいのではないかと考えられる。アルバイトの有無では、どの不安にも有意な差が認められなかった。その原因として、著しい人数差があったことが考えられる。本研究では、アルバイトをしているものが66名に対し、アルバイトをしていないものが15名であった。今日の大学生の現状では、ほとんどの学生はアルバイトをしていたり、経験したりしている。そのためアルバイトの

有無というカテゴリー分けをせず、個人差と考えることが適切だと考えられる。

続いて大学生生活不安尺度・就職未決定尺度・進路不決断尺度のそれぞれの因子を従属変数、「学部」、「学年」、「年齢」を独立変数とする1要因の分散分析を行った。その結果、「学年」にのみ有意な差が認められた。「決定」と「進路(職業)決定不安」の分散分析で学年の主効果が有意であったため多重比較を行ったところ、「決定」では2回生と4回生との間にのみ有意な差が認められた。「決定」の平均値は、まず1回生が高く、2回生からは学年が上がっていくごとに平均値も高くなっている。2回生から4回生までの平均値の変動に関しては、調査時期が関係しているのではないかと推測される。質問紙調査を行った時期が10月であり、多数の4回生は就職・進学先が決まっている。3回生はゼミの所属先が決まって半年が立つ時期でもあり、徐々に自己の将来像が固まりつつある時期である。そのため2回生、3回生、4回生と平均点も右上がりになっていっていったと考えられる。また1回生の平均点が高いことについては、各々が大学入学時にある程度自らの計画を持って入学しているためであると考えられる。例えば、教育学部の学生であれば教師になるという目標で入学しているなどである。そのため1回生の中にはまだ自己の目標が揺らいでいないことが考えられる。2回生から次第に専門的な授業が増え、自らの目標に対する知識が増え、目標が揺らぐ時期となっているものと考えられる。そのため、自分の目標に自信が持てなくなる、または疑問をもつ次期に差し掛かるのかもしれない。「進路(職業)決定不安」でも、2回生と4回生との間にのみ有意な差の傾向が認められた。まず、「進路(職業)決定不安」の平均値では、1回生が低く、2回生からは学年が上がっていくごとに平均値は低くなっている。これは「決定」の時とは逆の変動を示している。その理由としても同様のことが考えられるのではないだろうか。事前では「進路(職業)決定不安」に関しては1年後に卒業を控え、就職活動を行ったり、進路を決めなければならない次期に差し掛かる3回生が最も高いことが予想されたが、実際はそうとはいえなかった。その原因としては、3回生ですでに進路目標が確かなものになってきているものと考えられる。また4回生に関しては就職活動が終わっているものがほとんどで、進路が決まっているもの

Table11 重相関係数と説明変数の有意な標準偏回帰係数

因子(尺度)	重相関係数	自由度調整済重相関係数 2乗	就職未決定尺度		進路不決断尺度	
			決定	混乱	進路(職業)決定不安	進路(職業)モラトリアム
大学生生活不安尺度	0.535***	0.277	—	—	0.535***	—
大学生生活達成不安	0.490***	0.230	—	—	0.490***	—
日常生活不安	0.369**	0.125	—	0.369**	—	—
大学不適応	0.233*	0.042	—	—	0.233*	—

*: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$

が多い。そのために2回生から4回生にかけて平均点が下がる傾向が見られたと解釈される。1回生の平均点が低いのは、将来のことが漠然としていて、感じる不安が少ないと考えられる。このことについては、今後、進路(目標)を踏まえた検討が必要であろう。

つぎに「大学生生活不安尺度合計得点」と大学生生活不安尺度の各因子との相関を調べたところ大学生生活不安尺度と「大学生生活達成尺度」との間に非常に高い相関が見られた。また、「大学生生活達成不安」、「日常生活不安」と「大学不適応」との間に高い相関が見られると予想していたが、実際はそれほど相関は見られなかった。なかでも、「大学生生活達成不安」と「大学不適応」との相関は非常に低いものであった。このことは、今の学校が自分に合っていないと感じながらも、必ずしも不安を抱えているとはいえないことを示唆している。大学生生活不安尺度と就職未決定尺度、進路不決断尺度との相関では「大学不適応」を除く因子と「混乱」と「進路(職業)決定不安」との間にやや相関が見られた。しかし、大学生生活不安尺度の各因子と「決定」と「進路(職業)モラトリウム」との間にはほとんど相関が見られなかった。大学生にとって就職は深刻な達成課題と考えていたが、今日の学生にとっては必ずしもそのように決めつけることはできないのかもしれない。

大学生の不安と就職・進路で抱える問題との関係を検討するために、「大学生生活不安尺度合計得点」を目的変数、就職未決定尺度、進路不決断尺度の各因子を説明変数として重回帰分析の結果、「進路(職業)決定不安」のみ正の関係が示された。さらに、「大学生生活達成不安」・「日常生活不安」・「大学不適応」を目的変数、就職未決定尺度、進路不決断尺度の各因子を説明変数として重回帰分析の結果、「大学生生活達成不安」と「大学不適応」には「進路(職業)決定不安」のみ正の関係が示された。「日常生活不安」には「混乱」のみ正の関係が示された。「進路(職業)決定不安」、「決定」はそれぞれ、将来の進路に関する不安、また進路決定の進み具合を測るものであり、二つとも進路に関するものといえる。大学生にとって進路決定は大きな課題であり、また同様に不安な要素でもある。卒業すれば社会にでて働かなければならないため、大学での進路決定は人生の中で大きな選択となる。また就職を控えた4回生だけではなく、2回生は所属するゼミを選択しなければならず、また3回生でも就職活動を控えている。その中で進路選択というものは、大学生活の中で大きな不安要素になると考えられる。

要約

大学生の職業不決断を予知する要因の一つとして挙げられるのが、「就職不安」である。就職不安は「職業決定および就職活動段階において生じる心配や戸惑い、ならびに就職決定後における将来に対する否定的な見

通しや絶望感」とされている(藤井,1999)。就職不安は、単に就職が決まったら消滅するような単純なものではない。このような就職不安を長期間感じ続けることは、心身に様々な影響を及ぼすことが十分予想される。また、近年、大学に対し不適応を起こす学生が深刻な問題となっている。不適応の原因として、不本意入学、大学になじむことができない、講義が面白くないなどの理由が挙げられる。このように、大学生は様々な問題を抱えて生活している。大学不適応や就職不安などの要素から、大学生の学校生活・日常生活には不安が生じていると考えられ、大学生の感じる「不安」と、進路(職業)決定には密接な関係があるのではないかと考えられる。よって本研究では、進路(職業)の不決断などの「就職不安」が大学生の学生生活・日常生活の中で感じる不安に影響を与えているかどうかを検討していくことを目的とし、和歌山大学の学生81名に対して、質問紙調査を行った。本研究では3尺度を使用し、因子分析の結果、「大学生生活達成不安」、「日常生活不安」、「大学不適応」、「大学生生活不安尺度の合計点」、「決定」、「混乱」、「進路(職業)決定不安」、「進路(職業)モラトリウム」の各因子が抽出された。各因子についてt検定を行った結果、男女に関して「進路(職業)決定不安」について有意な差が見られた。女性に関しては就職難・出産・結婚等、進路を決める際により慎重にならなくてはならず、そのため男よりも進路を決めることに対して不安を感じてしまうと考えられる。各因子について分散分析を行った結果、学年に関して「決定」、「進路(職業)決定不安」について有意な差が見られた。「決定」の平均値は1回生で高く、2回生で低くなり、その後学年が上がっていくにつれ平均値が高くなっている。2回生から4回生までの平均値の変動に関しては、学年が上がるごとに進路が決まってくるものが理由として考えられる。また1回生の平均値が高いことについては、まだ自分の目標が揺らいでいないものが多いのではないかと考えられる。「進路(職業)決定不安」についての平均値は1回生で低く、2回生で高くなり、その後学年が上がっていくにつれ平均点が低くなっている。2回生から4回生までの平均値の変動に関しても、学年が上がるごとに進路が決まってくることに理由があると考えられる。また1回生の平均値が低いことについては、将来が漠然としていて、感じる不安が少ないことが考えられる。相関を見てみると、「大学生生活不安尺度」の各因子と「進路(職業)決定不安」との相関が見られた。各因子について、ステップワイズ法による重回帰分析を行った結果、標準化係数が有意であった変数は、「大学生生活達成不安」、「大学不適応」、「大学生生活不安尺度の合計点」では「進路(職業)決定不安」、「日常生活不安」では「決定」であった。相関の結果同様、「大学生生活不安尺度」からの各因子と、進路に関する項目との間には関連があることが

わかった。大学生にとって進路決定とは大きな課題であり、また同様に不安な要素でもある。卒業すれば社会にでて働かなければならなくなるため、大学での進路決定は人生の中での大きな選択となる。また就職を控えた4回生だけではなく、2回生は所属するゼミを選択しなければならず、また3回生でも就職活動を控えている。その中で進路選択というものは、大学生活の中での大きな不安要素になると考えられる。

引用文献

- Bandura, A. 1977 Self-efficacy: Toward a unifying theory of behavioral change. *Psychological Review*, 84, 191-215.
- Erikson, E. H. 1969 岩瀬康理(訳) 1982 アイデンティティ [青年と危機], 北望社.
- 藤井義久 1998 大学生活不安尺度の作成および信頼性・妥当性の検討. *心理学研究*, 68, 441-448.
- 藤井義久 1999 女子学生における就職不安に関する研究. *心理学研究*, 70, 417-420.
- Gati, I. 1986 Making career decisions: A sequential elimination approach. *Journal of Counseling Psychology*, 33, 408-417.
- Hackett, G. & Beltz, N. E. 1981 A self-efficacy approach to the career development of woman. *Journal of Vocational Behavior*, 18, 326-339.
- 笠原嘉 1984 アパシー・シンドローム—高学歴社会の青年心理—, 岩波書店.
- 草田寿子・岡堂哲雄 1993 家族関係査定法 岡堂哲雄(編) 心理検査学 垣内出版, 573-581.
- 岡田努 1995 現代大学生の友人関係と自己像・友人像に関する考察. *教育心理学研究*, 43, 354-363.
- 清水和秋 1990 進路不決断尺度の構成—中学生について. *関西大学社会学部紀要*, 22(1), 63-81.
- 下山晴彦 1986 大学生の職業未決定の研究. *教育心理学研究*, 34, 20-30.
- Taylor, K. M. & Betz, N. E. 1983 Applications of self-efficacy theory to the understanding and treatment of career indecision. *Journal of Vocational Behavior*, 22, 63-81.
- Taylor, K. M. & Popma, J. 1990 An examination of the relationships among career decision-making self-efficacy, career salience, locus of control, and vocational indecision. *Journal of Vocational Behavior*, 37, 17-31.
- 浦上昌則 1991 進路決定に対する自己効力測定尺度の作成の試み. *日本教育心理学会総会発表論文集*, 33, 453-454.
- 浦上昌則 1993a 進路選択に対する自己努力と進路習熟の関連. *教育心理学研究*, 41, 358-364.
- 浦上昌則 1993b 進路選択に対する自己効力と進路計画性・積極性との関連: 進路決定に対する自己効力測定尺度の作成の試み 3. *日本教育心理学会総会発表論文集*, 35, 519.
- 浦上昌則 1996 就職活動を通しての自己成長: 女子短大生の場合. *教育心理学研究*, 44, 400-409.

参考資料

大学生生活不安尺度(2段階評定)

1. 大学で人が自分のことをどう思っているか、気になります
2. 授業中に何かをしなければならぬとき、へまをするので

3. はないかと不安になることがあります
3. こんな大学にいたら自分がダメになるのではないかと憂鬱な気分になることがあります
4. 大学の成績のことを考えると、憂鬱です
5. 大学を退学したいと思うことがあります
6. 友達と一緒に何かをしなければならぬとき、うまく協力できるか不安な気持ちになります
7. 先生に「研究室まで来るように」と呼ばれたら何を言われるかとても気になります
8. テスト中に時間が残り少なくなると、自分の考えがまとまらなくなります
9. 1時間目の授業にきちんと起きて出席できるかどうか、不安です
10. 入学した学部が自分に合っていないような気がして不安です
11. 留年したらどうしようと、気になります
12. 卒業論文がうまく書けるかどうか、不安です
13. 授業中、先生の言っている内容がわからなくて、不安になることがあります
14. この大学にいと、何か不安な気持ちになります
15. 必修科目の成績が“D”(不可)だったらどうしようと心配になることがあります
16. 将来、良い会社に就職できるかどうか、不安です
17. 授業で発表するとき、声が震えることがあります
18. サークルで先輩たちとうまく付き合えるか心配です
19. テストを受けていて、わからない問題に出会ったとき、頭の中が真っ白になってしまうことがあります
20. テストを受ける時、悪い点をとってしまうのではないかと心配になります
21. 先生が近くにいると気になってしかたがありません
22. 成績のことが気になって仕方がありません
23. 1ヶ月の生活費が足りるかどうか、心配です
24. 申請した授業の単位がきちんともらえるかどうか心配です
25. 大学の先生と話をするとき、とても緊張します
26. テスト中、緊張して自分の力が発揮できません
27. 4年間で卒業できるかどうか、不安です
28. できることなら、転学あるいは転部したくて仕方がありません
29. 万一事故に遭ったり、病気をしたらどうしようと心配になることがあります

職業未決定尺度(3段階評定)

1. 職業につけたとしても、うまくやっていく自信がない
2. 自分の職業については、いろいろ計画をたてるが、一貫性が無く、次々に変化していく
3. 誤った職業決定をしてしまうのではないかと不安があり、決定できない
4. 私は、いつも自分で実現できないような職業ばかり考えている
5. 自分の職業決定には自信を持っている
6. 望む職業につけないのではと不安になる
7. 自分のやりたい職業は決まっており、今は、それを実現していく段階である
8. 将来に職業のことを考えると気が滅入ってくる
9. 自分なりに考えた結果、最終的にひとつの職業を選んだ
10. 私は、あらゆるものになれるような気持ちになる時と、何にもなれないのではないかとという気持ちになる時がある
11. 職業決定のことを考えると、とても焦りを感じる
12. 自分の職業計画は、着実に進んでいると思う

進路不決断尺度(5段階評定)

1. 進学先(将来の職業)を決めることに対して不安がある
2. 今まであまり進学(職業)のことを真剣に考えたことがない
3. 進学先(将来、職業)を決める事がうまくいくかどうか心配である
4. 進学などせずに(将来、職業につかずに)、好きな事をしていきたい
5. 進学(将来の職業)のことを真剣に考えたことがない
6. どのようにして進学先(職業)を決めればよいのかわからないので不安である
7. 将来のことはわからないから、進学先(職業)の事は考えたくない
8. 進学先(将来の職業)を決めることが漠然としていて不安である
9. 進学先(職業先)を決める事のむずかしさを考えると不安になる
10. 進学(職業)のことなど考えずに、自分の好きな事に集中していきたい